

第34章

アルマ 52 - 63 章

はじめに

エズラ・タフト・ベンソン大管長（1899 - 1994 年）はこう言っている。「わたしたちは、モルモン書を読むことにより、キリストの弟子たちが戦争の時代をどのように生きたかを知ることができます。」（『聖徒の道』1987 年 1 月号, 6）モルモンはある目的があって、戦争の記述をモルモン書に入れた。戦争の記述は、宗教上の権利を擁護するために自由を守る必要があることや、離反者たちがどのような害悪を及ぼすか、たとえ少数であっても義にかなった若者がいることの価値、戦争が道徳的に見て正当とされる状況、神の力に頼りながら悪と戦うための方法について教えてくれる。

注解

アルマ 52 - 53 章 戦争と流血

• アルマ 52 - 53 章は、「剣をとる者はみな、剣で滅びる」という救い主の言葉を立証している（マタイ 26:52）。（アモロンやそのほかの）背教したニーファイ人に率いられたレーマン人は、ニーファイ人の町を武力で奪い、守り通そうとした。しかし、どの町を奪うにも大きな犠牲を払わなければならなかった。「彼らが多くの血を失わずに奪い取った町は一つとしてなかった」のである（アルマ 52:4）。司令官モロナイは剣を取ることに常には消極的であり、むしろ平和のために剣を置くことの方を強く願っていた（アルマ 52:37 参照）。ニーファイ人が勝利を取った場合でも、双方に多大の犠牲者が出ることを、モロナイは知っていたのである。

すべての人がイエス・キリストの福音に従って生活していれば、絶対に戦争は起こらない。イエス・キリストは平和の君であり、イエス・キリストに従う者は皆、平和の使者なのである。

アルマ 53:9

ニーファイ人が危険な状況に陥った原因は何か。
このような状況避けるために何ができたか。

アルマ 53:9 争いの真の原因である罪悪

• ある解説者は、ニーファイ人が堪え忍んだような外的な試練が内面を顧みるきっかけとなる場合があると説明している。「そのため、結局レーマン人に脅かされて、『神に戒められる人はさいわい』であること（ヨブ 5:17）を思い起こさざるを得なかったことはニーファイ人にとって祝福であった。レーマン人がいかに邪悪で残忍で墮落した民であろうと（確

かにレーマン人はこのような民であった）、数のうえでどれほどニーファイ人を上回っていようと、どれほど巧妙に密偵を使い、陰謀を巡らし、密かに悪事を企て、情け容赦のない脅しの言葉を浴びせ、全面戦争に向けて恐ろしい軍備を推し進めていようと、それはニーファイ人にとって問題ではなかった。レーマン人は単に、ニーファイ人に自分たちが抱えているほんとうの問題に気づかせるための存在だったのである。ニーファイ人は、主の前をまっすぐに歩む必要があった。」（ヒュー・ニブリー、*Since Cumorah*, 第2版 [1988 年], 339 - 340）

アルマ 53:10 - 18 聖約の大切さ

• 十二使徒定員会の M・ラッセル・バラード長老は、聖約を守ることによって力が与えられると言っている。「わたしたちは時々、聖約より自分の都合に合わせて生活するよう誘惑を受けることがあります。確かに、福音の標準に添って生活し、真理を擁護し、回復を証する^{あかし}というのは、都合のいいことばかりではありません。……だからといって自分の都合に合わせて生活すると、そこに霊的な力は宿りません。そのような力は、わたしたちが聖約を守るときにもたらされるのです。」（『リアホナ』1999 年 7 月号, 103）

• 十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長は、聖約を守ることによってわたしたちは守られると説明している。

「聖約を守っていれば安全ですが、破れば危険にさらされることになります。……

……聖約を破りながらその結果から逃れる自由はありません。」（『聖徒の道』1991 年 1 月号, 92）

アルマ 53:16 - 21 若い兵士たちの模範

• 父親に代わって戦場に赴いた若い兵士たちは、義にかなった青年たちであった。国を守るという固い決意を持っていた（アルマ 56:5 参照）。死を恐れず、勇敢に戦った（アルマ 56:45 - 49, 56 参照）信仰の報いとして、神は驚くべき力と守りをお与えになった。戦死者が一人も出なかったのである（アルマ 57:25 - 26 参照）。これは軍務に就く義に



© クラーク・ケリー・ブライズ

かなった若者すべてに与えられる祝福というわけではない。時には義人が「主にあって死ぬ」こともある（教義と聖約 63:49）。しかし、この青年たちについては、神の守りが与えられ、戦場で命が守られた。彼らは神のすべての息子が見倣うべき男らしさの模範を示し、忠実であれば神が守ってくださることをニーファイ人国家に示す証^{あかし}となったのである。

アルマ 53:20 - 21 兵役を模範的に果たす

・現代において、大管長会は軍務に就いている教会員に以下の勧告を与えている。「兵役に就く若者の皆さんに申し上げます。だれのためにどこで務めるのであっても、清い生活をし、主の戒めを守り、真理と義の道を歩めるよう常に主に祈り、祈ったとおりに生活してください。そうするならば、何が起ころうとも主は皆さんとともにおられ、神の誉れと栄光を損ねるようなことや、皆さんの救いと昇栄を危うくするようなことは何も起こらないでしょう。皆さんが祈るとおりに清い生活を送るならば、言い表すことも理解することもできないような喜びが心に満ちるでしょう。主は常に皆さんの近くにいて、皆さんを慰めてくださるでしょう。皆さんは、これ以上はないと思われる苦難のときに、主の臨在を感じるでしょう。主のあらゆる賢明な目的に見合うかぎり、主はどこまでも皆さんを守ってくださるでしょう。そして義にかなった生活をしてきた人は、戦いが終わって故郷に帰ったときに、勝ち戦であろうと負け戦であろうと、主の命令に従ったという非常に大きな喜びを感じることでしょう。帰還した皆さんは義を行う訓練ができていますから、それ以後、サタンはどんなわなや策略を使っても、皆さんを陥れることはできません。皆さんの信仰^{あかし}と証は非常に強く、打ち破られることがないでしょう。皆さんは試練と誘惑の燃え盛る焔を無事にぐり抜けてきた者として尊敬され、敬われるでしょう。兄弟たちが助言や助け、導きを求めて皆さんのもとにやってくることでしょう。皆さんは、それ以降シオンの若者が人類への信頼をつなぎ止める鍵^{いかり}となるのです。」（ヒーバー・J・グラント、J・ルーベン・クラーク・ジュニア、デビッド・O・マッケイ、Conference Report, 1942 年 4 月, 96）

アルマ 53:20 - 21 「いつでも誠実に」

・十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老は、いつでも誠実であるということの意味について語っている。

「『誠実』という言葉は献身、高潔さ、忍耐、勇気を意味します。モルモン書の中の 2,000 人の若い兵士のお話を思い出します。

〔アルマ 53:20 - 21〕

今述べたことを基調に、わたしは帰還宣教師の皆さんに、つまり主に仕える聖約を交わし、福音を宣べ伝えて聖徒を完

全な者にする業にすでに奉仕した男女の皆さんに申し上げます。皆さんは信仰に誠実に生きているでしょうか。皆さんは自らの生活の中で、続けて福音の原則を実践していく信仰と変わらない決意を心に抱いているでしょうか。皆さんはよく仕えました。でも皆さんは開拓者のように、信仰に誠実に最後まで堪え忍ぶ勇気と一貫性を持っているでしょうか。」（『聖徒の道』1998 年 1 月号, 84 参照）

アルマ 56:45 - 48 「わたしたちは、母たちがそれを知っていたことを疑いません」

・十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老（1926 - 2004 年）は、親はすでに持っているものを与えることしかできないと説明している。

「親が上手に教え導き、子供が親の伝えようとしていることを素直に受け入れるならば、モルモン書に登場する、母親から非常によく教えられていた青年たちのような驚くべき若者が育つのである〔アルマ 56:47 - 48〕。……



もちろんこの青年たちが母親を信頼していたことも感動的ではあるが、母親たちはまず、『それ』を知っていなければならなかった。母親を近くで観察し（子供というものは常に親をよく観察しているものである）、その言葉を聞いていた彼らが、母親が『それ』を真実であると知っていることを『疑〔わない〕』ほど十分に知っていなければならなかったのである。」（*That My Family Should Partake* [1974 年], 58 - 59）

・女性をもっと用心深くしなければならないことに関連して、中央扶助協会会長のジュリー・B・ベック姉妹は、自分が何者であるかを知っている、聖約に忠実な女性について説明している。

「モルモン書には、非常に雄々しく、勇敢で、力強い 2,000 人の模範的な青年たちについて書かれています。『まことに彼らは神の戒めを守り、神の前をまっすぐに歩むように教えられていたので、誠実でまじめな者たちであった。』（アルマ 53:21）この忠実な青年たちはその母親をたたえ、『母たち〔は真理〕を知っていた』と語っています（アルマ 56:48）。……

今日^{こんにち}、母親の課せられた責任を果たすうえで、これほどまでに用心深くあるよう求められたことはありません。人類史上、これほどまでに母親が真理を知る必要に迫られている時代はありません。……自分が何者であるか知り、神を

知っていて、神と聖約を交わしていれば、母親たちには子供たちを善へと導く力と影響力が与えられ[ます。]」（『リアホナ』2007年11月号, 76）

アルマ 57:19 – 21 「確固としており、ひるみません」

• ゴードン・B・ヒンクレー大管長（1910 – 2008 年）は、確固としてひるまないことの大切さについて語っている。

「『皆さんのすべての考え方や言葉、行いに、この教会がどのような教会であるかが映し出されています。ですから、教会と神の王国に忠実であってください』とヒンクレー大管長は青少年に語っている。……

ヒンクレー大管長は青少年に向かって、彼らは『破壊的な影響力で満ちあふれる世の中であって、ヒラマンの息子たちのようです』と語った。『全能者を信頼し、この教会の教えに従って、傷つこうとも教えに忠実であり続ければ、皆さんは守られ、祝福され、大いなる者となり、幸せになるでしょう。』

青少年が生きる世の中について、ヒンクレー大管長は彼らにこう語った。『皆さんはバビロンの真っただ中にいます。敵はすべてを滅ぼそうとして向かって来ます。高貴な生得権を持つ皆さん、負けないでください。決して負けないでください。』」（*Church News*, 1996 年 9 月 21 日付, 4）

アルマ 58 章 自由のために戦う権利

• 血を流してでも自由のために戦うことについてさらに掘り下げた説明は、238 ページにあるアルマ 43:45 – 47 の注解を参照する。

アルマ 58:10 – 11 主は「霊に平安を」告げられる

• デニス・E・シモンズ長老は、七十人の会員を務めていたときに、神の平安は外的な状況によらないことを説明した。

「周りの世界が崩れていっても、約束された慰め主は、真の弟子の報いとして主の平安を与えてくださるでしょう。……たとえこの世では問題があっても、わたしたちは主の平安を得ることができます。主の平安とは、わたしたちが主に従って主の戒めを守ろうと努力するときに、慰め主である聖霊によって、心と思いに告げられる平安、落ち着き、慰めなのです。……

ヒラマンが戦いの最中に自分の『霊に平安を告げ』られたように（アルマ 58:11）、……真剣に求める人は皆、同じ平安を心に告げられます。この平安は、静かな細い声によって告げられた確信により、もたらされます。」（『聖徒の道』1997 年 7 月号, 36）

アルマ 58:10 – 11

ニーファイ人の信仰の祈りの結果、何が起こったか。
この答えは、わたしたちの自由を求める戦いに
どのように応用することができるか。

アルマ 58:34 – 37 「わたしたちはつぶやきたくありません」

• ニール・A・マックスウェル長老の次の言葉を読むと、つぶやきくなる原因をもっとよく理解できるようになる。「いずれ喜びの日に、『つぶやく者も教^{おしえ}をうける。』（イザヤ 29:24。2 ニーファイ 27:35 参照）これは、教義をよく理解していないことが、教会員の中につぶやきのある大きな理由であることを示しています。」（“A Choice Seer,” *Brigham Young University 1985 – 86 Devotional and Fireside Speeches* [1986 年], 115）

アルマ 59:9 守ることの方が容易である

• レーマン人の手に落ちないように町を守ることの方が、取り返すことよりもはるかに容易であると、モルモンは記録している（アルマ 59:9）。人も町と同じである。落ちてしまった人を引き上げるのは、落ちないように守ることよりもはるかに難しく、危険である。エズラ・タフト・ベンソン大管長（1899 – 1994 年）の言葉に次のようなものがある。「備えて防ぐ方が、後悔して償うより良い。」（*The Teachings of Ezra Taft Benson* [1988 年], 285）



アルマ 59:11 – 12 罪惡のために失われた町

• ニーファイ人の町を失ったことは、ニーファイ人の罪惡と、「主の力」で敵を打ち負かす力との間には、強い負の相関関係があることを示している（モーサヤ 9:17; 10:10 – 11; 10:12 – 13）。

アルマ 60:16 参照)。ニーファイ人の軍の指揮官は「啓示と預言の霊を持っている人」であることが多かった(3 ニーファイ 3:19)。これらの義にかなった軍の指揮官は、ニーファイ人が負けたのはレーマン人が手ごわかったからではなくニーファイ人の罪惡の結果であると考えた。これに対して、忠実なニーファイ人はたいいて自分たちの身を守り、町を取り返すことができており、しかも多くの場合、犠牲者は比較的少なかった(アルマ 52:19; 56:53 - 56:57; 7 - 12; 58:25 - 28; 62:22 - 26 参照)。困難や大きな問題にぶつかっても、義にかなった生き方をして主に頼るならば、主がともにいてくださり、主の業が最終的には勝利を収めるという確信を常に抱くことができると、主は繰り返し教えておられる(教義と聖約 6:34; 10:69; 33:13 参照)。

アルマ 60:10 - 14 義人の殺害

• 主は「御自分の罰と裁きを悪人に下せるように」義人が殺されるのを許されると、モロナイは書いている。「したがって、あなたがたは、義人が殺されても捨てられたと思うには及びません。まことに、彼らは主なる神の安息に入るので。」(アルマ 60:13)

第二次世界大戦の開戦直後に、大管長会は次の声明を出した。「今起こっている恐ろしい戦争に対して、世界のあらゆる地域、多くの国々に住む多数の義にかなった若者たちが、自国の徴兵に応じています。その中には、従軍中にすでに天の家に召された者がおり、これから召される者がいることもほぼ確かです。しかし、モロナイが言うように、『まことに』、兵役を果たして殺される義人は『主なる神の安息に入る』のであり(アルマ 60:13)、彼らについて主は次のように言っておられます。『わたしにあって死ぬ者は死を味わわないであろう。死は彼らにとって甘いからである。』(教義と聖約 42:46) 彼らが来るべき世で救いと昇栄にあずかることは間違いないことです。破壊の任務を果たす中で同胞を殺すことになるとしても、それについて神は責任を問うことをなさいません。戦時における罪は、昔モロナイが言ったように、『考えもなくほんやりとした状態で座に着いてい[る]』(アルマ 60:7) 人々、憎しみに駆られて不義の権力と支配力を同胞のうえに振るおうとし、自らは理解も制御もできない永遠の力を発動しようとする世の指導者たちにあり、罰は彼らに下るのです。神は御心にかなうときに、彼らに裁きを下されるでしょう。」(ヒーバー・J・グラント, J・ルーベン・クラーク・ジュニア, デビッド・O・マッケイ, Conference Report, 1942 年 4 月, 95 - 96)

アルマ 60:19 - 36 モロナイからパホーランへの手紙

• パホーランは、モロナイから受け取った手紙を読んで傷つくという選択をすることもできたが、そうはしなかった。十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老は、パホーランのように、わたしたちも傷つかないという選択をすることができると説明している。

「わたしたちが『自分は傷つけられた』と思い込んだり、言ったりするとき、通常それは、侮辱や不当な扱いを受け、冷酷で軽蔑的な態度を執られたことを指します。確かに、人々と接するときに行き違いや困惑、非道義的で不寛容な出来事が起き、それによってわたしたちは傷つくことがあります。しかし突き詰めていくと、ほかの人があなたやわたしを傷つけることなど不可能なのです。はっきりと言えることは、ほかの人々がわたしたちを傷つけたと思ひ込むのは根本的に間違っているということです。傷つくことは、自らの選択であり、ほかの人々や何かがわたしたちに負わせた状況ではないのです。……

イエス・キリストの贖い^{あがな}が持つ、人を強める力を通して、皆さんもわたしも、傷つくことを避け、克服することができます。『あなたのおきてを愛する者には大いなる平安があり、何ものも彼らをつまずかすことはできません。』(詩篇 119:165) ……

……ニール・A・マックスウェル長老が語ったように、教会は『すでに完成の域に達した人が休息する何もかも整った施設』ではありません(『聖徒の道』1982 年 7 月号, 69 参照)。むしろ、教会は学ぶことを目的とした研究室であり、『聖徒たちをととのえ』る過程において、お互いに試行錯誤しながら経験を積むための実習室なのです。

マックスウェル長老は同様に、回復された教会として知られる、末日における学ぶための研究室で、会員はそれぞれ『実習のためのパートナー』であり、成長と進歩のためには互いが不可欠である、と洞察に満ちた言葉を述べています(“Jesus the Perfect Mentor,” *Ensign*, 2001 年 2 月号, 13 参照)。……

あなたもわたしも、他人の思いや行動をコントロールすることはできません。しかしながら、どのように受け止めて行動するかを決めるのは自分なのです。あなたもわたしも、選択の自由を授けられた、自分から作用する存在であり、傷つかないことを選ぶことができるのです。そのことを忘れないでください。」(『リアホナ』2006 年 11 月号, 89 - 91)

アルマ 60:23 器の内側を清める

• エズラ・タフト・ベンソン大管長は、この警告は何の疑い

もなくわたしたちにも当てはまると言っている。「シオンの中では、万事がよいわけではないと答えざるを得ません。モロナイの勧告のように、わたしたちは器の内部を清潔にしなければなりません（アルマ 60：23 参照）。まず自分自身から始め、次に自分の家族、最後に教会という順で進めていく必要があります。」（『聖徒の道』1986 年 7 月号、4）

アルマ 60：23

この節に印を付けるとよい。そして、自分の内側を清めるために何をしなければならないか考える。

アルマ 61 章 不条理な叱責への対応

●ニール・A・マックスウェル長老は、忠実な教会員の間ですら、いさかいは起こり得ると説明している。「不完全な人が集まる完全な教会の中では、時に何らかの行き違いが必ず起こる。その顕著な例が、古代アメリカに住んでいたイスラエルの中で起こった。モロナイは、必須の物資が幾ら待っても届かず、自分たちがないがしろにされていることに抗議する手紙をパホーランに 2 度書き送っている。モロナイはその地の為政者パホーランのことを、『考えもなくぼんやりとした状態で』座に着いていると言って非難した（アルマ 60：7）。パホーランは直ちに、愛国心にあふれる返事を書いた。その中で、モロナイの望みを果たすことができない理由を説明している。非難されても、パホーランは腹を立てなかった。それどころか、モロナイの『心の広さ』をほめたたえたのである（アルマ 61：9）。主の弟子としてお互い非常に献身的に働く場合、主の業を進める最上の方法について意見が食い違うことが時折あるが、これはやむを得ないのである。この手紙のように、後に不条理だと分かるような叱責をしてしまうこともある。」（*All These Things Shall Give Thee Experience* [1979 年], 119）

アルマ 62：41 逆境の効用

●ダリン・H・オックス長老は、逆境からどのような影響を受けるかを選択するのは自分であると説明している。

「確かにこれらの大変な逆境に、何らかの永遠にわたる目的または影響がないはずはありません。逆境はわたしたちの心を神に向けさせてくれます。……逆境はこの世では困難を負わせるとしても、男女を永遠の祝福へと導く手段にもなり得るのです。

自然災害や戦争などといった広範囲にわたる逆境は、現

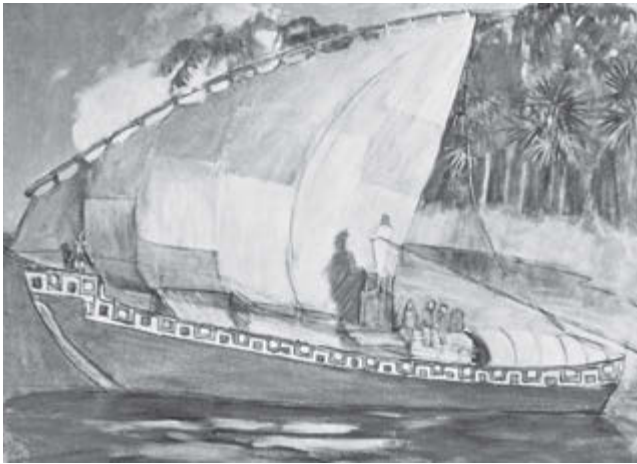
世の経験には付き物のようです。逆境をすべて避けることはできませんが、どう対処するか決めることはできます。例えば、戦争や兵役という逆境によって、霊的に墮落してしまう人がいるかと思えば、霊的に目覚める人もいます。モルモン書には、このような対照的な例が描かれています。

『しかし見よ、ニーファイ人とレーマン人との戦争が非常に長期に及んだため、多くの者がかたくなになった。戦争が非常に長期に及んだためにそうなったのである。しかし、苦難を受けたために柔和になった者も多く、彼らは神の前に心底謙遜にへりくだった。』（アルマ 62：41）

数年前、フロリダ州を襲った猛烈なハリケーンが数千世帯の住居を破壊して去った後に、同じように対照的な人たちがいました。ニュース記事には、同じ惨劇に遭い、同じ祝福を受けながらも違った受け止め方をした二人の例が載っていたのです。どちらも家は完全に破壊されたものの、家族にけが人や死者はありませんでした。一人はこの災禍によって信仰を失ったと言いました。神はなぜこんなことが起こるのを放っておかれたのかと言うのです。もう一人はこの経験によって信仰が強くなったと言いました。神が守ってくださったと言います。家族の家や持ち物はなくなったけれども、命は守られたのだから家はまた建てられると言うのです。片方の人にとってはコップには半分しか水が入っておらず、もう一方の人から見れば、コップには半分も水が入っていたのです。道徳的な選択の自由という賜物は、わたしたちが逆境に遭ったときに、それぞれどういう行動を取るかを決める自由を与えています。」（“Adversity,” *Ensign*, 1998 年 7 月号、7－8）

アルマ 63：4－10 北方の地への旅立ち

●「南太平洋諸島に住む聖徒たちに向かって、〔スペンサー・W・〕キンボール大管長は次のように語った。『教会の大管長であるジョセフ・F・スミス大管長はこのように報告しています。「ニュージーランドから来た兄弟姉妹の皆さん、皆さんに知っていただきたいのです。皆さんはハゴスの末裔です。」ニュージーランドの聖徒たちはこれを聞いて安心しました。主の預言者が語ったのです。……ハゴスとその同行者たちは紀元前約 55 年から福音の伝道が始まる 1854 年まで、19 世紀にわたってこの島々に住んでいたと結論づけるのに十分な証拠があります。救い主が地上の人々に教えてくださった分かります。貴い事柄について、彼らは知りませんでした。キリストがエルサレムでお生まれになったとき、彼らは海の島々にいたと推定されるからです。』（Temple View Area Conference Report, 1976 年 2 月、3）」（ジョセフ・フィールドینگ・マッコンキー、ロバート・L・ミレット共著、*Doctrinal Commentary on the Book of Mormon*, 全



4 卷〔1987 - 1991 年〕, 第 3 卷, 329)

デビッド・O・マッケイ大管長（1873 - 1970 年）は、ニュージーランド神殿の奉献の祈りの中で、ハゴスの民に起こったことを具体的に述べている。「父リーハイの子孫をこの豊かな地に導き、繁栄を可能にしてくださったことに感謝します。」（“Dedicatory Prayer Delivered by Pres. David O. McKay at New Zealand Temple,” *Church News*, 1958 年 5 月 10 日付）

理解を深めるために

- 祖国を尊び、支え、守るために、あなたには何ができるだろうか。
- モロナイの手紙とパホーランの手紙の両方から、どのような教訓を学んで自分たちの生活に役立てることができるだろうか（アルマ 60 - 61 章参照）。
- 義と自由にはどのような関係があるだろうか。
- アルマ 52 - 63 章を読む。戦争に関する最も偉大な原則で、あなたが人に教えることのできるものは何だろうか。

割り当ての提案

- モロナイの防衛戦略をあなた自身の義を守る戦いにどのように応用できるか、日記に記録する。
- 信仰の敵から自分を守る方法について、分かったことを記録するとよい。
- 下記の一つまたは複数のテーマで家庭の夕べのレッスンの概要を書く。
 1. 主が与えてくださった手段を活用する（アルマ 60：21 参照）
 2. 器の内側を清める（アルマ 60：23 参照）
 3. 世の誉れよりも神の栄光を求める（アルマ 60：36 参照）
 4. 傷つかない（アルマ 61：9 参照）